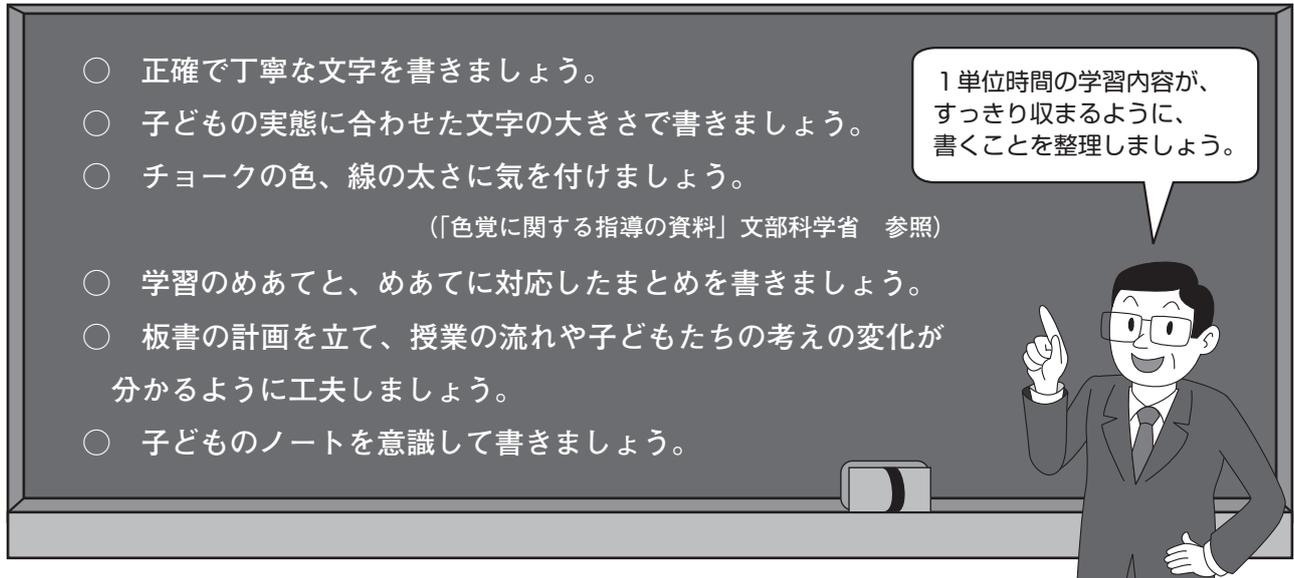


I-6 板書

先生、黒板を見ると、今日の授業が振り返れる！

☆ 「板書の基本」これだけは大切にしよう。



○ 正確で丁寧な文字を書きましょう。

○ 子どもの実態に合わせた文字の大きさで書きましょう。

○ チョークの色、線の太さに気を付けましょう。

〔色覚に関する指導の資料〕文部科学省 参照

○ 学習のめあてと、めあてに対応したまとめを書きましょう。

○ 板書の計画を立て、授業の流れや子どもたちの考えの変化が分かるように工夫しましょう。

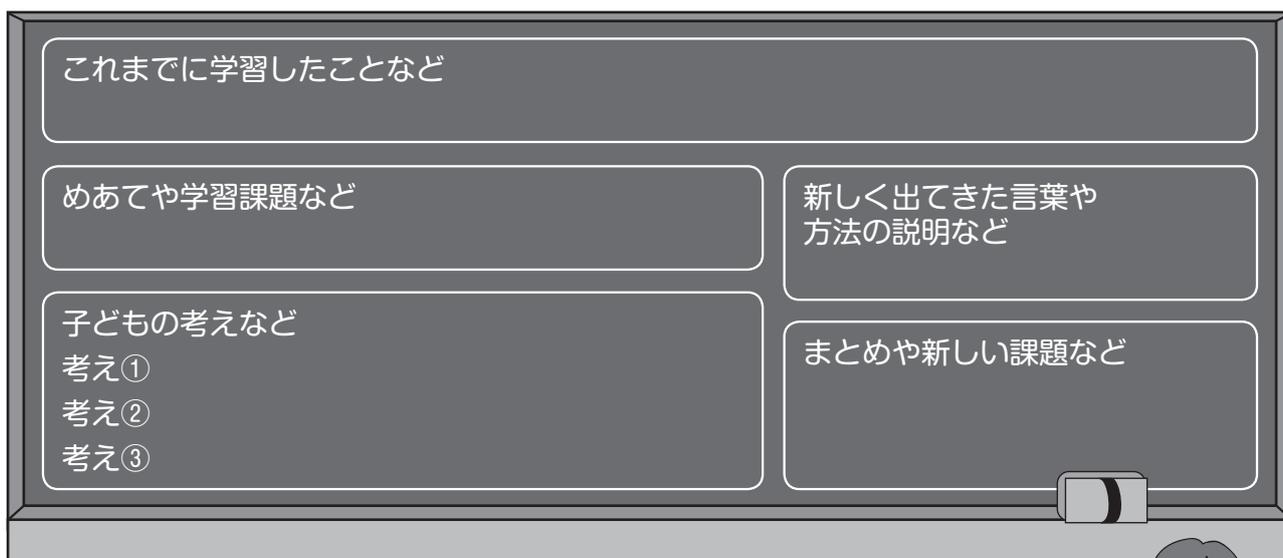
○ 子どものノートを意識して書きましょう。

1単位時間の学習内容が、すっきり収まるように、書くことを整理しましょう。

☆ 目的に合わせて黒板の使い方を工夫する。

- 学習の流れをつかむために
 - ・ 教科や学習内容に応じて、「上から下へ」「右から左へ」「左右対称に」など、見て分かりやすい構成にする。
 - ・ 「学習課題」や「活動のめあて」などを書いて、学習することを確認する。
 - ・ 単元の計画や作業順序などを示して、学習の見通しをもたせる。
- 学習内容を共通理解するために
 - ・ 絵や写真などの資料を用いて、共通に考える材料を示す。
 - ・ 教師や子どもが書いた短冊カードなどを貼ることで、お互いの考えを知り合い、比べたりまとめたりする。
 - ・ 「分かったこと」「まとめ」などを位置付けて、学習の成果を共有する。
- 学習効果を高めるために（電子黒板の活用）
 - ・ 教科書の一部、絵や写真などの資料を、拡大して分かりやすく示す。
 - ・ 学級全員で同じものを見ながら、意見交換の材料としたり、出された意見を書き込んだりすることで、交流活動を活発にする。
 - ・ コンピューターなどと組み合わせて、既習内容や考え方を分かりやすく示すことで、思考の過程を視覚化する。
 - ・ 見学記録や練習の様子などを映像で示し、学習の振り返りやまとめをする。

☆ 板書を構造化する。(教科、内容によって様々な形式が考えられる。)



☆ 板書の技術を高める。

- 板書を通して指導しましょう。
 - ・ 文字や記号などの正しい書き方の順序を示す。
 - ・ 絵、図、グラフなどのかき方を具体的に示し、子ども自身がかかるようにする。
 - ・ 各教科等で共通の「自分の考え」「ポイント」「注意点」などを用いることで、考え方のモデルを示す。
 - ・ 必要に応じて板書をパターン化することで、ノートの書き方のヒントにする。
- 子どもが参加する板書で、主体的な学習を進めましょう。
 - ・ 名前磁石などを活用して、子ども一人一人の立場を明確にする。
 - ・ 短冊カードや小黒板、吹き出しなどを活用して、子どもの意見を位置付ける。
 - ・ 教科や学習内容に応じて、子どもに板書を担当させることで、日常的に関わることができるようにする。
- 学習したことの記録として、学習過程や結果が分かる構成にしましょう。
 - ・ 前時までの学習の掲示物を生かして、単元のつながりを意識したり、本時の課題解決の手がかりとしたりすることができるようにする。
 - ・ 書き加えるだけでなく、場合によっては消しながら、学習内容の確認をする。
- 黒板の周りも活用して、学習の効果を高めましょう。
 - ・ 週予定や時間割黒板などを活用して、学習への興味や関心を高める。
 - ・ 前の時間までに学習した内容や、参考になる資料などを背面黒板などに掲示する。

ノートにそのまま書き写せるような構成にすることも大切だね。



子どもが集中できるすっきり黒板！

学習に不要なお知らせやプリントなどは、できるだけ黒板以外の場所へ移すなどして、黒板周辺の掲示物は最小限にし、授業に集中できる環境を整えましょう。

わん！ポイント！

